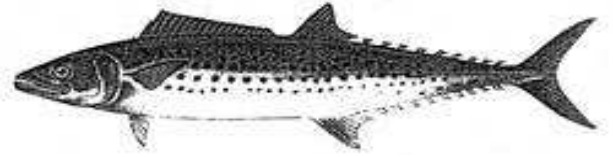


平成17年全国水産試験場長会会長賞を受賞

全国水産試験場長会では、「試験研究において、地域水産業の振興に顕著な成果を収めた業績とそれに直接関わった個人又はグループを表彰し、その功労に報い、あわせて研究職員全般の発揚と研究活力を高め、水産関係技術の発展に資する」との主旨のもとに、会長賞を全国から毎年3件選出し表彰しています。平成17年1月25日に開催された全国水産試験場長会において、香川県水産試験場のサワラ資源管理チームの業績他2業績が会長賞を受賞しました。

- 1 被表彰者 香川県水産試験場 サワラ資源管理チーム
- 2 業績名 サワラ資源管理の推進をめざした研究
- 3 業績の概要



【背景と目的】

サワラは香川県の味の代表となっている重要な魚種であるが、1986年に1,075トンあった漁獲量が1998年には17トンにまで落ち込み、漁業関係者は危機感を持って国や県に対応策を要望した。そこで、1998年から香川水試内にサワラ資源管理チームを結成し、種苗放流や資源生態調査による資源管理手法の検討を行い、漁業者と連携して本種の資源回復をめざした。

【内容】

①種苗生産、標識放流試験

種苗生産技術開発に関して1998年から(独)水産総合研究センター屋島栽培漁業センターと連携して取り組み、天然親魚の確保、人工授精、中間育成技術を開発すると共に、標識放流では外部標識に比べて長期間でも有効な内部(耳石)標識技術を確立し、標識放流魚が再捕されたことにより、移動回遊が実証された。

②資源調査

標本調査、市場調査、試験操業、放流魚の再捕結果等から資源量の動向把握、春漁の漁況予報を行った。

【効果】

漁業者の資源管理に関する合意形成を促し、自主的な資源管理意識を向上させることができた。サワラ資源管理の取り組み(秋漁休漁、網目拡大等)は近隣県に広がり、2002年には国の「さわら瀬戸内海系群資源回復計画」が作成され、11府県で計画実現に向けた取り組みがなされている。これらの取り組みの相乗効果として、1998年以降香川県のサワラ漁獲量は増加に転じ、2003年香川県における漁獲量は85トンとなっており、2004年は200トンを上回る見込みである。

4 参考(今回受賞した他の2課題)

- ・アユ冷水病マイクロカプセルワクチンの開発研究(神奈川県水産総合研究所)
- ・統計的水温予測手法の開発と魚海況情報の高度化(宮城県水産研究開発センター)



表彰を受けた水産試験場のサワラ担当者とサワラの種苗生産を担った水産総合研究センター屋島栽培漁業センターの担当者